

2022年度JKA補助事業 研究補助(公益)について、2回目の自己評価を行ってください。

・提出期限：2024年4月30日(火)

・提出先：p2022hyoka@keirin-autorace.or.jp

≪自己評価書(2回目) 記入のしかた・記入例について≫

- \* **青字部分**は記入例です。記入の際、参考にしてください。
- \* **水色箇所**は記入箇所、**ピンク色の項目**は選択肢の中からひとつを選択していただく項目となります。
- \* 以下の【記入にあたっての注意点】もご一読のうえ、ご記入ください。

2022年度自己評価書(2回目) 様式・記入例 ↓

【記入にあたっての注意点】

整理番号	2022P -	150	補助事業者名	〇〇大学 経営学部 競輪花子	補助事業名	〇〇〇〇の研究
------	---------	-----	--------	----------------	-------	---------

2022年度 JKA補助事業 自己評価書(2回目)

作成日	2024	年	4	月	15	日	作成者	競輪 花子
-----	------	---	---	---	----	---	-----	-------

1. 以下の評価項目について、ご記入ください。

a. 個別の評価項目について、交付誓約書添付の『事前計画／自己評価書(3/5)4. 補助事業の事前計画』の、達成状況等を把握し、ご記入ください。

○採点基準については、2022年度補助事業実施に関する事務手続要領『別冊評価要領』p27,28 スコアリングガイドをご参照ください。

(1) 受益者 (ニーズ)	今回の調査研究で、全国にある〇〇〇施設を対象とした調査を実施したことにより、育児期における女性であっても運動やスポーツの実施が可能とするためには〇〇〇の施設設備を有する必要があるなど、受益者のニーズに応えるためのデータを整えることができた。			採点	
				4	
(2) 事業内容	事業の新規性または継続の必要性	本調査で得られたデータを用いて統計的解析を実施し、〇〇〇の施設における〇〇〇の整備により………が可能となり、育児期の女性であっても運動やスポーツの実施が可能となることを示すことができた。			採点
					4
(2) 事業内容	事業の発展性	本研究の成果により、多くの〇〇〇〇〇〇において、〇〇〇を用いた新たな施設形態での〇〇〇を整備することにより、より効率的な〇〇〇〇〇〇をより広い範囲で実現する可能性を示すことができた。今後、〇〇〇による研究結果の公表によって、それを実現させるための目標である素地ができた。			採点
					4
(3) 達成目標	事業の成果・波及 ※自己評価1回目から変化があった場合に記入してください。	達成値	達成状況	具体的内容	採点
		2件	150%	1回目の自己評価時では学会発表等が1件であったが、その後〇〇〇学会、にても発表を行った。また、論文の投稿も実施した。	5

◆整理番号、補助事業者名(大学・学部名、研究者名)、補助事業名を記入してください。

◆この自己評価書の作成日、作成者を記入してください。

◆交付誓約書添付の事前計画／自己評価書(3/5)の目標に対し、どれだけ達成できたかを記入してください。  
採点欄については、スコアリングガイドを参照の上、採点してください。  
(点数はプルダウンで選択できます)

◆(3) 達成目標については、1回目の自己評価時から達成状況などに変化があった場合、変化があった後(現在)の状況について記入してください。  
**!! 注意 !!** ・【達成値】現時点での「実績値」を記入して下さい。  
・【達成状況】のパーセンテージについては、1回目の自己評価時との比較ではなく、事前計画／自己評価書(3/5)記入の内容と比較して算出してください。

b. 交付誓約書添付の『事前計画／自己評価書(2/5) 3. 補助事業実施の必要性(1)補助事業が最終的に目指すこと』の、現時点での達成状況をご記入ください。(過去年度から継続して実施している事業の場合は、それも踏まえてご記入ください。)

「最終的に目指すこと」としては、育児期における女性であっても運動やスポーツの実施率を高めるための支援であり、今後、研究を〇〇〇段階に進ませ、育児期女性に優しい施設に関する整備情報を〇〇〇施設指標の成立要件の適応に向けて引き続き取り組んでいく予定である。また、施設の対応状況・運用状況についても調査を継続する。

◆事前計画／自己評価書(2/5)の「最終的に目指すこと」に対して、現時点での達成状況を記入してください。

2. 補助事業として実施した研究内容の段階を選択してください。

☒ 基盤(実用化以前の段階) ☐ 実用化(試作品の開発、装置の開発) ☐ 製品化(注文販売化、量産化)

◆あてはまるものをひとつ選択してください。

3. 補助事業として実施した研究内容等について、現時点での学会発表・論文発表等、対外的に発表した実績及び予定があればご記入ください。(発表先及び発表時期、また、論文発表については査読付きである場合、その旨もご記入ください。)

【例:「テーマ・論文名」〇〇学会 第〇回〇〇講演会 〇年〇月〇日】

・「テーマ 〇〇〇〇〇〇」〇〇〇学会 第〇回〇〇講演会 2023年〇月〇日  
・「テーマ 〇〇〇〇〇〇」第〇回〇〇学会 〇〇大会 2024年〇月〇日～〇日 予定  
・「テーマ 〇〇〇〇〇〇」International 〇〇〇〇 on 〇〇〇〇 2023年〇月〇日～〇日 査読付き

◆今回、補助事業として実施した研究内容について、学会発表・論文発表等、対外的に発表した実績を記入してください。また、今後発表する予定についても記入してください。

4. 補助事業の研究結果は今後どのような産業(分野)に役立つと推測されますか。具体的にご記入ください。

育児期において行動制限が限られる女性において、非常に役立つ情報源になると思われる。  
国や自治体の公共施設においても、施設運営に役立つことが可能となる。

◆今回、補助事業で行った研究が、今後どのような産業(分野)に役立つと思われるか、なるべく具体的にご記入ください。

5. 補助事業から得られた研究成果が、社会で実用化・製品化されるのにどの程度の年数が必要と考えられますか。

☐ 補助事業年度内に既に実用化・製品化済み ☐ 1年以内 ☒ 1～3年程度 ☐ 3～5年程度  
☐ 5年以上 ☐ わからない ☐ その他

◆あてはまるものをひとつ選択してください。

※その他を選択した場合、詳細をご記入ください ⇒

※「その他」を選択した場合は、その詳細を記入してください。

6. 今後、当該研究の継続や当該研究と関係する研究を行う予定があればお聞かせください。

本事業による成果をベースとする発展研究が科研費に採択されたため、現在、より具体的な〇〇〇の研究方法を検討をしている。また、今後も実用化に向けた研究を継続していく予定である。

◆今回の補助事業で行った研究やそれに関連する研究について、今後継続して研究を行う予定があれば、その内容について記入してください。

7. これまでにJKA以外の団体から研究助成を受けたことがあれば、その団体名・研究助成の名称等をお聞かせください。

科研費 基盤研究C  
(公財)○○財団 ○○○○研究助成  
(公社)●●会 ●●●研究助成金

◆今回行った研究テーマに限らず、過去、助成を受けたことがある助成団体やその団体が行う助成事業の名称をご記入ください。  
特になければ「特になし」と記入してください。

8. 様々な研究助成があるなか、JKA補助事業に要望された理由があればお聞かせください。

○○学会にてJKA補助事業の紹介がされており、JKA補助事業の対象が自分の研究分野と一致したため。  
また、○○○の研究に特に多額の費用が必要となるため、他の助成に比べて助成額が大きい点もよかったため。

◆JKA以外の団体でも研究に対する助成事業を行っていますが、複数ある研究助成事業の中からJKAの補助事業を選んだ理由を記入してください。

9. 研究分野を取り巻く状況や課題をお聞かせください。

育児で忙しい20～40代の女性は、男性や他の世代の女性と比べ運動やスポーツの実施が難しい環境に置かれていることが知られている。  
彼女たちの中には運動やスポーツすることを希望しているにもかかわらず、実施を断念している場合も数多くある。これらの状況に対応できるサービスを提供する施設を整備することによって問題を解消することができる。

◆研究分野を取り巻く状況や、研究を行うにあたっての課題等をご記入ください。

10. 上記1～9の補足や、JKAに対するご要望等がございましたら、ご記入ください。

今後も継続して研究者に対して補助を行ってほしい。

◆この自己評価の補足や、JKAに対する要望等を記入してください。

以上となります。 ご協力ありがとうございました。 p2022hyoka@keirin-autorace.or.jp までご送信ください。

【研究補助】公益